

ふはおとろへぬ、春花秋のみちといへど、春の霞たなびき、あきのきりたちこめつれば、こぼれて匂ひみえず、たゞひとわたりの風にちりぬるときは、水のあわみぎはのちりとこそはなりぬめれた。此殿の御まへの榮花のみこそ、ひらけはじめさせ給にしよりのち、千とせの春のかすみあきの霧にもたちかくされて、風もうごきなくえだをならさねば、かをりまざるよにありがたくめでたき事、優曇花のごとく、水におひたるはなはあをきはちすのよにすぐれて、かにほひたる花はならびなきがごとし、

〔續世繼^六たけのこ〕みかど關白につぎ奉りては、御は、かたのきみだちをこそよにまかるべき人にておはすめれ、九條殿師輔藤原の御子の中に三郎におはしませ、關白たえずさせ給、十郎にあまひ給へりし、閑院のおほきおと季公のすゑこそ關白はし給はねども、うちつゞきみかどのおほんをぢにて、さるべき人びとおはすめれば、その御ありさま申さんどて、まづみかどの御は、かたを申つゞけ侍なり、朱雀院村上の御おほぢは堀河殿基藤原、冷泉院圓融院の御おほぢは九條殿師輔藤原、花山院のは一條殿伊藤藤原、一條のゐん三條院のは東三條殿兼藤原、後一條院、後朱雀院、後冷泉院、此三代の御おほぢは御堂の入道殿道長藤原、この十代みかどは、昭宣公基藤原と申堀川殿のひとつ御すゑなり、後三條院こそは、かたもみかどの御まごにておはしませど、御はは陽明門院はみだう道長の御まごにておはしませばひとつ御ながれなり、白川院の御おほぢ閑院の春宮大夫能藤原のおなじおがれにおはしますを、まごとの御おやは、閑院の左兵衛督公成成のおなじ御ながれなれど、東三條殿兼藤原の御すゑにはおはせで、その御おとうどの閑院のおと季公の御すゑなり、この閑院のおほきおと季の御むまごにおはせし、左兵衛のかみ成公の御すゑよりつゞき、御かどの御おほぢにおはす、このさんなりの左兵衛督の御子、あせちの大なごんさねすゑは、鳥羽の院の御おほぢなり、此大納言の太郎には、春宮大夫公實と申き、經平の